

ご挨拶

低炭素社会の実現に向けて



豊橋技術科学大学
電気・電子情報工学系 教授
未来ビークルシティリサーチセンター
センター長 大平 孝

我が国は約12兆円の石油を毎年輸入し続けています。そのうち約4兆円分をマイカー・トラック・バスなどの陸上ビークルが消費しています。この大量の石油は自動車エンジンの中で二酸化炭素に変わり大気中へ放出されています。もし、現在のガソリン自動車に替わって電気自動車が主流となる、すなわち、化石燃料に頼らない再生可能エネルギーで電気を作り、その電力で走る電気自動車が移動手段の主流となれば低炭素社会の実現にむけた改革が大きく前進します。私たちは「未来ビークルシティ」のビジョンとして、石炭・石油・電池に続く第4世代ビークルである「電化道路電気自動車」を提唱し、そのキーテクノロジーとなる走行中給電の技術を開発します。走行中給電により現状の電気自動車の深刻な問題点である連続航続距離・充電時間・車両コストの3課題を克服することにより電気自動車の普及を大きく加速できます。さらに電化道路は自動運転とも相性が良く、車の智能化・予防安全・交通マネジメント・ワイヤレス情報通信・高周波パワー半導体回路技術を組み合わせ、低炭素でかつ安全安心な交通社会インフラシステムの構築を目指します。

